

令和5年度 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部と金沢市との連携事業（主なもの）

連携項目	事業名	事業目的	(北陸学院大学)	(金沢市)
教育や人材の育成、 交流	若手保育者フォローアップ研修事業 潜在保育士等就業支援事業	若手保育者に対し、専門知識を学ぶ講座や悩みごとの相談、受講者同士の交流を通して、業務への不安・悩みの軽減、モチベーションの維持を図ることで、離職の防止につなげる。 潜在保育士等を対象に、現在の保育事情等についての講義や演習を行うことで、業務に対する不安を解消するとともに、円滑な復職・就職につなげる。	教育学部 幼児教育学科	こども未来局 幼児教育センター (資料2)
	城北児童会館伝承遊び継承事業	伝統遊具（竹とんぼ、けん玉、こま回し等）の遊び・製作を行い、こどもたちに伝承遊びに親んでもらうとともに、「遊び」から集中力や研究心の伸長をはかり、「製作」から作ることの楽しさ、作ったもので、遊ぶ喜びを経験してもらう。	教育学部 幼児教育学科	こども未来局 子育て支援課 (資料3)
	学生の協力による「放課後子ども教室」充実事業	子どもが喜ぶ企画の立案や、子どもと触れ合う機会を提供することで、学生の貴重な実習の機会とすることに加え、学生の企画や運営を参考にすることで、公民館において地域住民等が講師となって行う「放課後子ども教室」事業の充実にもつなげる。	教育学部 初等中等教育学科	教育委員会 生涯学習課 (資料4)
	子ども読書推進プラン実践事業	学生が企画するおはなしと遊びの会を実施し、「金沢子ども読書推進プラン2019（第4次）」が示す社会全体での子どもの読書活動推進につなげる。	教育学部 幼児教育学科	教育委員会 図書館総務課 (資料5)
学生のまち推進	学生のまち推進事業	学生と市民との相互交流を促進し、学生とまちとの関係を深め、賑わいと活力を創出する。	地域教育開発センター	市民局 市民協働推進課 (資料6)
食文化の振興	金沢のヘルシーお魚レシピ開発事業	家庭での魚食普及に向け、健康面に着目したレシピや簡単調理レシピを開発し、パンフレットやHP等で情報発信を行う。	健康科学部 栄養学科	農林水産局 農業水産振興課 (資料7)
	エコ・スイーツ発信事業	ごみ減量につながるエコクッキングをさらに促進するため、テーマをスイーツに絞り事業を行う。スイーツをテーマにすることで、取り組みへの意欲向上を図るとともに、新たな層への働きかけを行う。	健康科学部 栄養学科	環境局 ごみ減量推進課 (資料8)

**◆事業目的**

2023年度も金沢市幼児教育センターより依頼を受け、若手保育者を対象とする事業連携に取り組むこととなり、研修会の企画、開催を行った。参加者と共に保育、子どもについて考え合い、学びの場を広く提供することを目的に行った。

**①若手フォローアップ研修事業**

若手保育者を対象に日々の業務への不安や悩みの軽減、モチベーションの維持をねらい、子ども理解をはじめ保育に関する課題について、研修会において学び合うことをねらいとしている。

**②潜在保育者等就業支援事業**

※2023年度は金沢市より直接講師を依頼し研修会を企画しており、本学における企画、実施はされていない。依頼を受け、本学からは中島賢介教育学部長が担当された。

保育士資格や幼稚園教諭の免許状を有しながらも現在、幼児・保育施設に勤務していない方を対象に、再び保育の現場に復職、就職を目指してもらうきっかけとなるよう、現在の子どもを取り巻く環境や子ども理解に関することについて学び合うことをねらいとしている。

**◆連携している部局等**

北陸学院大学教育学部 幼児教育学科  
金沢市幼児教育センター

**◆令和4年度の取組み**

【開催された研修会】 1つの研修会を企画

① 10/21 (土) 10:00～11:30頃

『保育の魅力を再発見!!—1～2歳児の感触あそびづくり—』 若手保育者フォローアップ研修

講師：崎浜聡（北陸学院大学准教授） 対象：若手保育者 本学卒業1～4年目保育者へ案内

会場：北陸学院大学 美術室 参加人数：9名の保育士、保育教諭（金沢市、小松市など）

内容：

①アイスブレイク：自己紹介ゲームでお互いを知ろう。

②保育について語り合う談話会

研修の事前に参加者に皆で話し合いたいこと、質問等を聞いており、いただいた以下のようなことを中心に語り合いがされた。

- ・自園での手作り玩具の実践内容 ・ままごとコーナーの環境設定
- ・子どもが心を開いて話したり甘えたりできるように配慮していること
- ・どんな行事があるのか
- ・保育室でどんな感触遊びをしているのか
- ・感触遊びやその他の遊びのアイデア、乳児の発達に応じた遊びについて

③感触おもちゃづくり（2種類の玩具を作製）

- ・「スケルトンコップDEラップIN〇〇づくり」
- ・「シリコン風船を使った感触おもちゃづくり」

## ■今年度研修会を開催して

### [参加者からの感想の抜粋]

「園に戻り手作り玩具で遊んでみると、子どもたちが楽しんでいる姿を見ることができて良かった」「手作り玩具は、今の子どもの姿に合わせて作ることができるが、発達面を支えるだけでなく、心理面でも影響をもたらせると改めて感じた。」

「手作り玩具を作ることも大変楽しかったし、玩具も簡単に作れるもので、その玩具がある意図も納得のいくもので面白かったです。」

上記のような感想をいただき、研修で製作した玩具を持ち帰り、実際に保育で使用して子どもたちの反応をみるのが楽しみだったり、子どもたちの遊びを捉える視点に変化があったりしたことはとてもよかったですと思う。

### [若手フォローアップ研修]

・研修には2022年度本学を卒業し保育者となった卒業生全員（1年目保育者）に当研修会の案内をメールで配信を行っている。金沢市からは市内保育施設へ周知していただいた。参加者には過年度の卒業生で園に届いた案内により研修を知り参加した方もいた。改めて案内の大切さと案内をする時期も重要であると感じた。

・今年度は本学の大学祭期間中に本研修を開催した。通常の土・日開催よりも、キャンパス内が賑やかであり、また研修後には模擬店などにも立ち寄ってもらい、教員や後輩たちとの再会の場としても好評であった。参加者には模擬店で利用できるチケットを配布し研修後も大学祭を楽しんでいる姿があった。

・手作りの玩具を作りながら（作業しながら）も意見交換（語り）が続き、互いの保育や職場についての意見交換の場となり有意義な時間となっていたようである。異なる園の保育者仲間との輪も広がり、多様な保育があることを理解し様々な考え方があることにも改めて知る機会となっていたようである。語り合いがあり、明日からの自身の保育に期待を持つ気持ちへと繋がっていたことも窺えた。

2023年度 幼児教育センター若手フォローアップ研修事業担当

幼児教育学科 谷 昌代



# 「城北児童会館伝承遊び継承事業」

## 1. 目的:

伝統遊具(竹とんぼ、けん玉、こま回し等)の遊び・製作を行い、子どもたちに伝承遊びに親んでもらうとともに、「遊び」から集中力や研究心の伸長をはかり、「製作」から作ることの楽しさ、作ったもので、遊ぶ喜びを経験してもらう。

2. 期間:平成 29(2017)年 10 月~現在に至る

3. 場所:金沢市立城北児童会館

4. 連携団体:福祉局こども未来部 子育て支援課 / 城北児童会館

## 5. 活動計画

- (1) 大学担当者と城北児童会館担当者で打合せを行い、年度の活動案を策定する。  
(※児童会館行事の「日曜ワクワク遊び塾」の一環として実施)
- (2) 大学担当者が講師の手配、講師との打合せ、段取りを行い、児童会館に伝達。イベント補助学生の募集と打合せ、準備(適宜)。
- (3) イベント実施
- (4) 反省会・次年度へ

## 6. 事業の経過

<今年度>

- ①10月上旬児童館との打ち合わせ
- ②10月中旬学生ボランティア募集
- ③10月下旬学生との企画打ち合わせ
- ④11月5日(日) 11:00~12:00 学生ボランティア4名、保護者4組参加
- ⑤2月10日(土) 中止(地震対応及び卒業研究発表会と重なったため)



今年度は、新任教員への引継ぎで後期からの開始になった。11月に1回目を行ったが、12月には児童館の都合で見送った。2月に実施予定であったが、地震への対応を考慮したことで卒業研究発表会の日と重なったため中止となった。次年度は、5月からの開始に向けて調整していきたい。

## 「学生の協力による『放課後子ども教室』充実事業」

### 1. 目的：

子どもが喜ぶ企画の立案や、子どもと触れ合う機会を提供することで、学生の貴重な実習の機会とすることに加え、学生の企画や運営を参考にすることで、公民館において地域住民等が講師となっていく「放課後子ども教室」事業の充実にもつなげる。

### 2. 連携団体：教育委員会 生涯学習部 生涯学習課/各公民館

### 3. 活動計画

- ①大学より、次年度の実施計画（対応可能曜日等）を生涯学習課に伝達。
- ②企画を希望される公民館からの回答内容を検討し、年度の実施計画を立案
- ③公民館と打合せを行い、活動の大枠を検討する。詳細は学生が創意工夫して準備。
- ④イベントの実施
- ⑤反省会

### 4. 事業の経過

- ・令和5年11月22日（水）三和公民館（15:00～17:30）

#### ほくりくがくいんのお兄さん・お姉さんと遊ぼう

令和元年度以来、コロナ後初の実施。「①紙飛行機」「②手形アート」「③モルック」3つの遊びブースを設け、前半1年生、後半は2年生以上の児童が参加した。

会場：三和公民館

参加児童：三和小学校区児童 70名程度

本学学生スタッフ：13名（4年次小中高教員志望学生有志）



- ・令和5年12月9日（土）米泉公民館（13:30～16:00）

#### 「あそVIVA☆クリスマス in 米泉2022」(※ポストコロナ企画として実施)

6年目の開催。今年度は昨年同様、5つのブースを設け、児童は密を避けて町会毎に時間を区切って会場を訪れて遊びを楽しんだ。子ども会のプレゼントと併せ実施「①すごろく」「②ケーキ的当て」「③つり師の楽園」「④バンクボウリング」「⑤靴下づくり・わたしは誰でしょうゲーム」の5つのブースを運営した。

会場：米泉小学校体育館

参加児童：米泉小学校区児童 約200名程度（米泉子ども会共催）

本学学生スタッフ：33名（1年次「キャリアデザインⅡ」受講生）





# 子ども読書推進事業

## ◆目的

図書館へ来館する子どもたちや親子を対象に、学生による絵本の読み聞かせや遊びを通じて、図書館に親しみ、読書にふれあう機会を提供するとともに、図書館事業に携わる学生ボランティアの育成や活動を支援する。

## ◆連携している部局等

北陸学院大学人間総合学部 子ども教育学科  
金沢市教育委員会生涯学習部図書館総務課

## ◆令和5年度の取組

### 【 おはなし会 】

- ・ミッションおはなし隊「ふゆのおとみつけ」

日時 2024（令和6）年1月28日（日）11:00～11:30 14:00～14:30

場所 金沢市立玉川こども図書館

内容 冬の音にちなんだ絵本の読み聞かせ、冬の行事を楽しむ活動

従事学生 4年生 1人 3年生 2人 2年生 1人 参加者 計63名

昨年行った「なつのおとみつけ」に続き、今回は冬の音が聞こえてくるような絵本と節分にちなんだ絵本の読み聞かせを行いました。午前中は、絵本の読み聞かせが続いたので、午後には手遊びや歌などを盛り込んで修正して臨みました。どちらもすべて満員で、豆まき（新聞紙をくるんだ豆）も楽しくできました。



### 【 体験イベント 】

- ・「おはなしと遊びの会」

日時 2023（令和5）年10月21日（土）10:00～15:00

場所 金沢市立玉川こども図書館 2階「読書活動室」3階「交流ホール」

内容 「絵本の世界へようこそ」

絵本の読み聞かせ、絵本の内容にちなんだ工作活動や遊び

対象 乳幼児～小学生

参加人数 子ども 165 人 大人 116 人 合計 281 人

従事学生 4 年生 28 人 (当日欠席 1 名)

私たちは、親子で楽しんでいただけるような活動を 3 つのグループに分かれて企画し、絵本の世界観を楽しんでもらえるよう、絵本の内容にちなんだ活動や秋を感じることができるよう環境構成の工夫をしました。当日は天候にも恵まれ、たくさんの親子に参加していただくことができました。保護者の方や学生との関わりの中で、子どもたちの笑い声や楽しそうな表情が見られ、私たちは多くの学びと達成感を得ることができました。以下の活動報告を致します。

〈各グループの学びと感想〉

### 【みんなでおうちをかざろう】

当日は、塗り絵コーナーやお絵かきコーナーで思い思いに絵を描き楽しんだり、室内を探検して隠れている人形や絵を見つけて楽しむ姿が見られたりと、子どもたちは広く大きな環境の中でそれぞれ自分の遊びを満喫している様子でした。段ボールでつくった大きなトンネルを潜り抜けていく子どものワクワクとした目の輝きやトンネルの中に人形を見つけた時の嬉しそうな声色、学生に手を振って部屋を出ていく子どもの満ち足りた表情から、環境をとことん作り込むことで完成した環境は、子どもたちにとって本当にワクワクする絵本の世界になると学ぶことができました。

私たちは、この活動にどのような思いやねらいを持って取り組むかを話し合い、当日までそれらの実現のために奮闘してきました。時間や資源などが限られる中で、今出来る全てを盛り込んだ活動になったと感じています。この活動は、私たち学生にとって自分の強みや課題を見つめ直すとても良い経験になったと感じています。



### 【秋で遊ぼう！】

落ち葉はきゲームでは子どもたちの年齢に合わせてルールを変更して遊んだり、チームや競う相手を変えて何回も遊んだり、子どもたち一人一人がそれぞれの遊び方でゲームを楽しむ様子を見ることができ、落ち葉のペンダント作りでは、ご家族と一緒に真剣に制作に取り組む様子を見ることができました。また、部屋全体を使ったクイズでは、壁の装飾に興味を持ち、一つ一つの装飾に触れながら答えを探す様子を見ることができました。遊びに来てくれたお子さんそれぞれが活動の中で秋を感じてくれたのではないかと思います。

活動を通して、お子さんだけでなく保護者の方ともお話をさせていただき、お



子さんの気持ちに寄り添いながら伝わりやすい言葉遣いを意識する関わりと、保護者の方の気持ちにも寄り添いながら相手を尊重する言葉を心がける関わりなど、保育者としてお子さんと保護者の方、両者との関わり方を学ぶことができました。他にも、お子さんが絵本の世界観に浸ることができるような環境作りの大切さも再認識いたしました。また、午前の部での反省点を午後の部に活かすなど臨機応変に対応する力を発揮することもできました。

#### 【あきのおつかいスタンプラリー】

私たちは、3つのコーナーを順々に回りながら、さまざまな遊びに触れることができるように秋のおつかいスタンプラリーを行いました。当日は、神経衰弱を時間いっぱい思う存分楽しむ子の姿が見られました。また、折り紙コーナーでは、難易度が異なる折り方の見本を準備したことにより、簡単レベルを折り終えたあとに「難しいのもする!」と難しいレベルに挑戦する子どもの姿があり、それぞれのコーナーで自分のしたい遊びを十分に楽しんでいる様子でした。

午前の部では、予想以上の賑わいになかなかうまく連携をとることができなかったものの、午後の部に向けて反省を行い「この椅子を壁向きではなく親に向けることで子どもの顔を確認しやすくなるのではないか」「いや、でも壁に椅子を向けることで子どもたちが集中して折り紙に取り組めるのではないか」等と意見を出し合い、よりよい環境づくりや空間づくりに繋げていくことができたのではないかと考えています。

本イベントを通して、仲間と共に一から計画し、協力しながら1つの大きなものを作り上げたことで、強い達成感を感じることができました。これから、社会人として羽ばたこうとしている私たちですが、この経験は必ず強みになると思っています。



#### 〈活動を通して〉

参加して下さる皆さんに、絵本を通してファンタジーの世界や秋の季節を楽しんでいただくためにはどのような活動を行えばよいのか、どのような環境作りが必要なのかを各グループで話し合いながら準備を進めてきました。準備中には、他のグループからも意見をもらうことによって、安全に配慮しながらより楽しめるような活動内容へと改善していきました。また、活動内容だけではなく、子どもが秋の世界に没頭することができるように環境作りにもより力を入れることができたと感じています。

当日は多くの方々遊びに来てくださいました。時間の調節や環境設定などイベントが始まってから見てきた問題もありましたが、適宜対応し、ご来場くださった方々に楽しんでいただける場をご用意することができたのではないかと思います。イベントを通して、改めて、子どもたちと関わる楽しさを実感することができました。また、グループでの活動だけでなく、今回初めてイベントの運営にも学生が携わりました。それぞれの仕事(担当内容)をやり遂げる大変さだけではなく、連絡を取り合うことの大切



さや人と協力することの難しさを体感しました。

今回の活動を通して、子どもたちが「楽しかった」と感じられ、心に残る（心が動かされる）体験ができる場を用意していきたいという思いが強まりました。活動を終えた気づきの一つに、協議を重ねて絵本の世界をリアルに作り込むことで子どもたちがワクワクしながら主体的に関わることができるということがあります。また、今後の歩みの改善点としては、「情報伝達をより綿密に行っていくこと」や、活動をより良くしていくために「相手を尊重しながらも核心に迫る協議を行うこと」があります。今回新たに見えてきた点は、保育者を目指す上で大変重要な気づきだと感じました。残りの大学生活ではこれらを意識し、より良い保育者となるための学びとしていきたいです。ありがとうございました。



#### ◆今後の予定、方向性

次年度も「おはなし会」を実施して、子どもたちや親子に絵本に親しむ機会を設ける。

「かなざわ読書フェア」については、「おはなし会」同様、今年度実施した体験活動を基にさらに充実した内容となるよう取り組む。

## 雪かきボランティア協定

### 1.目的

高齢化などの課題を抱えるまちなか地域の雪かきの支援を通じて、地域参加の促進や地域コミュニティの活性化を図ること

### 2.期間

2023.12.13~2024.2.28

### 3.場所

十一屋連合町会

### 4.事業の経過

登録学生 21 名

地域からの除雪要請:なし

### 5.補足

除雪要請はなかったものの、2月5日に万寿苑に二次避難する能登半島地震被災者向け炊き出し支援を、十一屋連合町会および平和町商店会と共に実施し、参加した学生らは食事の盛り付け及び配膳を中心に会場運営を手伝った。今回の炊き出し支援は、雪かきボランティア協定を締結した中で生まれた活動であり、今後は降雪の有無にかかわらず、大学と地域が連携して町内会活動、商店街活動等の機会を創出していくことで前向きな意見交換を交わすことができた。



# 金沢のヘルシーお魚レシピ開発事業

## ◆目的

ライフスタイルの変化や食の簡便化により、調理に手間がかかる魚は敬遠され、消費は年々減少している。水産関係者にとって、この「魚離れ」が深刻な課題となっていることから、魚が持つ健康面に着目し、簡単に調理できるレシピを栄養学を学ぶ学生に提案してもらい、市が情報発信していくことで、家庭での魚食普及を図っていく。

## ◆連携している部局等

北陸学院大学短期大学部	食物栄養学科（担当：新澤祥恵教授、田中弘美教授）
金沢学院大学	人間健康学部健康栄養学科
金沢学院短期大学	食物栄養学科
金沢市	農林水産局農業水産振興課

## ◆令和5年度の実施

5月 第1回検討会（5/30）

- 3大学の担当教授と事業の進め方を検討
- ・テーマ「野菜といっしょにとれるお魚レシピ」
- ・授業の課題として取り組み、各大学で10品程度を選出
- ・第2回（9月下旬）に合同で審査し、各大学から3品程度に絞り10～11品のレシピを選定
- ・最終レシピは、パンフレットやクックパッドに掲載

8月 発表会開催場所の見学（8/4）

9月 第2回検討会（9/29）

代表レシピの選定

11月 原稿作成

12月 作品撮影（12/1）

1月 発表会打ち合わせ

Zoomミーティング  
（1/12）

データ送付

2月 お魚レシピ発表会（2/10）

## ◆今後の予定、方向性

・来年度もテーマを変えて継続し、金沢で捕れるお魚を使用したヘルシーレシピで地域や家庭での魚食普及を図る事業を実施していく。今年度の新しい試みとして、市民対象に発表会を企画し、意見交換ができたことです。学生にとっては、考案したレシピをプレゼンテーションし、実際に試食してもらい感想を聞くことができたことは大きな学びとなり、他大学との交流にもつながった。



## エコ・スイーツ発信事業

### ◆目的

ごみ減量につながるエコクッキングをさらに促進するため、テーマをスイーツに絞り事業を行う。支出金額が全国1位であるお菓子やスイーツをテーマにすることで、取り組みへの意欲向上を図るとともに、新たな層への働きかけを行う。

### ◆連携している部局等

北陸学院大学健康科学部 栄養学科 ミッション食育グループ

(担当：俵 万里子 講師、長岡 花恵 助手)

金沢市環境局ごみ減量推進課

### ◆令和5年度の取組

6月 かなざわエコ・スイーツレシピコンテスト募集 応募期間 6/1(木)～8/31日(木)

<応募要件>

- ・捨てがちな食材を活用していること
- ・一般家庭で作ることができるお菓子であること
- ・未発表のレシピであること

9月 1次書類審査 (9/15)

書類審査により、すべての応募レシピ (32 レシピ) の中から5つのレシピを選定

<審査員>

- ・青海万里子氏 (金沢エコライフくらぶ代表)
- ・金岩重典氏 (一般社団法人石川県洋菓子協会会長)
- ・俵 万里子 (北陸学院大学短期大学部 講師)

金沢フォーラス「SDGs ウィーク」イベント参加 (9/17)

エコ・スイーツ作品を学生 (7名) が作成 (9/16)、約450ヶを無料配布した。

菓子：令和4年度エコスイーツレシピコンテスト最優秀賞「加賀フロランタン」

10月 金沢農業祭り エコ・スイーツ作品の無料配布 (10/22)

エコ・スイーツ作品を学生が作成 (10/21)、約200ヶを無料配布した。

菓子：令和4年度エコスイーツレシピコンテスト最優秀賞「加賀フロランタン」

11月 2次試食審査 (11/4)

- ・書類審査を通過した5つのレシピを北陸学院大学学生が調理する。
- ・審査員は、食材・材料を無駄なく使っているか、作りやすいなど調理工程を確認
- ・最優秀賞 (1 レシピ)・優秀賞 (2 レシピ)・優良賞 (2 レシピ) を決定



12月 入賞レシピを用いた料理教室（12/9）

・場所：金沢市中央市場食育会館スタジオ DO（金沢市西念）

・参加者：親子6組12名

・学生8名がデモンストレーション、調理サポートを行った。

1月～2月 レシピ動画作成

入賞レシピ（5作品）、パティシエ考案レシピ（3レシピ）の動画作成

3月 レシピ冊子完成・配布予定

◆今後の予定、方向性

次年度は令和4・5年度に開催したエコ・スイーツレシピコンテストで募った受賞作品以外のレシピの中から学生が選定を行い、試作・動画作成を行う。

作成動画は市HP（YouTube）やLINE、SNS等での発信や市内イベントでの放映を予定している。また、次年度開催予定の「エコフェスタ」（例年10月の第1土曜または日曜開催）にて選定された作品を作成・販売するなど、今後、さらに幅広い層の人々に向けて情報を発信し、ごみ減量への関心を高めていきたい。